

## 世界史特別講座 ピラミッド研究最前線 報告

講師 河江 肖剩 先生  
名古屋大学高等研究院准教授  
日時 令和2年1月22日(水) 15:10～16:40  
場所 地歴公民室  
参加者 約80名

調査方法の画期的進化により、新しい発見が相次いでいるピラミッド研究について、先生の行っている3D計測とその画像処理結果などを通して、最新の状況を解説していただいた。また、ギザのピラミッドや、その建設のために作られたピラミッドタウンの発掘を通して、多分野の研究者がチームを作るという、現代の考古学研究の在り方を学ぶことができた。



### ピラミッド研究最前線要旨

高校卒業後、単身エジプトに渡ったピラミッドに興味を持った青年は、現地でガイド業をしていたが、やがてカイロ・アメリカン大学に入学して考古学者になった。これが先生がこの道に入った経緯だそうです。考古学、すなわち **demystification** には「神秘性を解き放つ」という意味があるそうです。それは人間が何をしたかを探求することであり、先生にとってのそれは「人間はどうピラミッドを作ったか」という、人間の活動の探求です。その先生の研究活動の出発点はピラミッドタウンです。ピラミッドを建設するために人々が生活した、まさにピラミッドのすぐ近隣に作られた町です。多くの人々が住み、穀物庫があってパンが焼かれ、人々は銅器を使って石を切り出し、運んで組み上げていく、それを管理する役人も住んでいたそうです。町の全体の発掘だけでなく、小さな封泥や彼らが食べた家畜の骨などの情報を集め、人々の生活を解き明かすものだったそうです。

そして、現在の考古学の特徴は、考古学者だけでなく、食物や炭の専門家、たとえばミューロンを使ってピラミッド内部を探查する、同じ名古屋大学の森島先生のような工学系の学者、コンピュータによる画像解析の専門家まで、スクラムを組んで研究をしていくことだそうです。先生が取り組まれているピラミッドの3D計測でも、ストラクチャープロムーションという技術が使われています。実際にピラミッドに登って集めた情報としての映像を研究室で三次元で復元できるという画期的なもので、ピラミッドをどう組み上げていったかという疑問を解決する重要な鍵となるそうです。明らかになったピラミッドの石組みは、普通に我々が想像するような整然と同じ大きさの石が組み上げられていったものではないそうです。

さらに、現在先生はドローンを使ってギザのピラミッドを上空から撮影して、詳細なピラミッドの三次元画像の制作に取り組まれ、今年の夏には解析が終わり、現在論文を作成中だそうです。もし次回の世界史教養講座に来ていただければ、きっとその成果をお聞きすることができると思います。ピラミッドタウンの人々の生活の実際、クフ王の時代にピラミッド建設に携わった神官の残した、最古のバビルスに刻まれた建設日誌など、先生が携わっておられるエジプト古代史への興味は尽きません。